

ベトナム・ハノイ研修（SEKISHO JOB FAIR インターンシップ）報告

1. 概要

ベトナム・ハノイにて、約一週間の海外研修を行った。参加生徒2名については選抜を行い、一名は考古学や発掘に興味があり、非破壊検査や保存に関する研究をしたい生徒、もう一名は将来海外での日本語教師を志し、企業の海外進出や外国人雇用の実情に関心のある生徒である。

2. 日程

10/17 (金) 事前説明会	関彰商事下館本社にて、ベトナム海外研修の保護者説明会を行った。
10/29 (水) 研修1日目	12:00 に成田空港集合、14:40 成田空港発 20:30 (現地時間 18:30) ノイバイ国際空港に到着 23:30 (現地時間 21:40) 宿へ到着、夕食を食べて1日目終了
10/30 (木) 研修2日目	日越大学訪問 大学1年生向けに開講されている日本語クラスへ参加。 自己紹介、学生と一緒にロールプレイを行った。将来海外での日本語教師を志す生徒にとっては、現地学生たちの意欲の高さ、日本語教育の現状など、自分の目で確かめる良い経験となった。 昼食 ブンチャー（焼肉入り米粉つけ麺）やネムザン（揚げ春巻き）を食べ、現地の食文化に触れた。 JIS 日本国際学校訪問 小学5年生の日本語授業に先生として参加。自己紹介、絵しりとりゲームなどを通じて、現地の児童と交流した。高校3年生の授業も参観し、日本へ留学したい学生がとても多いことを体感した。

10/31 (金) 研修 3 日目	ベトナム社会科学アカデミー 古都研究所 元副所長の ライ ヴァン トイ准教授・博士のご自宅訪問 セキショウベトナムの方に通訳していただきながらインタビューをした。専門を突き詰めると同時に、周辺知識に関心をもつことも必要、と助言をいただいた。考古学に興味がある生徒は、遺跡研究者との対話を通して、研究に対する姿勢を学ぶ良い経験となった。 国際交流基金 日本語パートナーズの先生方との会食 日本語パートナーズから派遣されている先生お二人と会食を行った。歓談の中で、将来のキャリアに向けてのアドバイスをいただいた。JIS の小学生に教えてもらったバイソクオン（蒸し春巻き）やゴイクン（生春巻き）、バインセオ（ベトナム風お好み焼き）を食べた。 セキショウ・ジョブフェア準備@ハノイ工科大学
11/1 (土)・11/2 (日) 研修 4・5 日目	セキショウ・ジョブフェアの運営補助活動 企業受付や誘導など運営の補助活動をしながら、企業説明会の雰囲気を体感した。出展した日本企業の熱量やベトナムの大学生の意欲を直に感じる事ができた。 ナイトマーケット散策
11/3 (月) 研修 6 日目	ハノイ周辺の観光 タンロン城跡、文廟、などを訪問した
11/4 (火) 研修 7 日目	0:20 ノイバイ国際空港を出発 6:50 成田空港着後、解散

3. 活動の様子

①日越大学訪問



②日本語クラスの学生たちと交流



③最後は記念写真を



④ JIS 日本国際学校訪問



⑤小学5年生に向けて自己紹介



⑥はじめての授業！



⑦トイ准教授のご自宅にて



⑧日本語パートナーズの先生方との会食



⑨ジョブフェアの会場となったハノイ工科大学にて



⑩企業受付の手伝い



⑪タンロン城跡 採掘場



⑫文廟（ユネスコ世界記録遺産）観光



4. 生徒の声

▼参加生徒1

ベトナムでの研修では、日越大学や現地のインターナショナルスクールを訪問し、現地の学生がどのように日本語を学んでいるのかを見学しました。実際に日本語を学ぶ学生たちの姿勢や、文化を越えて学ぼうとする意欲に触れ、日本語教育の広がりや難しさを実感しました。

また、私は発掘の現場で使われる機械に興味があり、研修中にはベトナムで考古学の雑誌記者として活動し、大学で准教授も務めていた方にお話を伺いました。その中で、ベトナムの考古学研究の現状や、文化財の保存・発掘における技術的な工夫、日本との違いなどについて学ぶことができました。

これらの経験を通して、自分の持っていた将来のイメージをより具体的にすることができました。今後は、発掘や調査において非破壊的な技術を活かし、文化財を守る分野で国際的に関わることを目指したいと考えています。

▼参加生徒2

今回の研修を通して、自分がやりたいと自信を持って言える職業を見つけることができました。

日越大学を訪問した際は、現地の大学生が受ける日本語の授業を見学しました。見学したのは会話の授業で、日本語の会話文をロールプレイ形式で学習していました。会話のテーマは苦情を言うなどの日常的なもので、言い訳をするなど細かな状況に合わせた言い回しを重要表現として覚えるスタイルでした。現地の学生はフレンドリーな方が多く、前に出て会話を披露する際には積極的に手を挙げる姿が見られました。

日本国際学校では、現地の小学五年生とゲームを通して日本語で交流しました。生徒たちは一年生から日本語を学んでいるためか会話がスムーズで、私達がやや難しいと感じる程の漢字を勉強していて驚きました。私は将来日本語教師を目指しているため、実際に日本語を教える体験ができ嬉しかったです。

国際交流基金の日本語パートナーズの方々との交流では、仕事の内容を始め様々なことを聞くことができました。まさに私がやりたいことを職業としている方々の話を聞いていく中で、今まで何となく決めていた自分の将来の夢に初めて自信を持つことができました。

実際に自分で現地の雰囲気を感じ、人々と出会い交流することでたくさんの学びを得ることができました。今回の研修で感じたことを大切に、これからの進路に活かしていきたいと思います。